

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社を取り巻く環境が総じて緩やかな回復基調で推移するなか、第3四半期累計決算においては、売上高、営業損益、純損益とも前年同期を大幅に上回り、特に営業損益、純損益は過去最高益を更新しました。こうした決算および今後の経営環境、為替動向を踏まえ、通期業績予想を上方修正しました。なお、受注につきましても、発電・社会インフラ、産業インフラをはじめとして、当初計画を上回り好調に推移しています。

当社は、今年度を「攻めの経営拡大」の年と位置付け、「収益力の強化」「海外事業の強化」を推し進めています。昨年12月にシンガポールの低圧配電盤メーカーを買収するなど、海外事業の基盤づくりが着実に進展してきています。また、さらなる収益力強化に向け、仕事の進め方をゼロベースで見直す「業務品質の向上」にも社員一丸となって取り組んでいます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

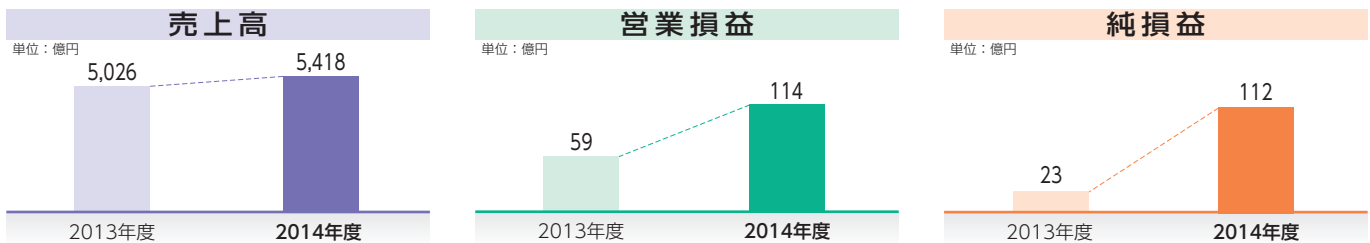
2015年2月



富士電機株式会社
代表取締役社長

北澤通宏

2014年度第3四半期累計決算（4月～12月）



セグメント別状況

セグメント	売上高 (億円)			営業損益 (億円)		
	2013年度	2014年度	増減	2013年度	2014年度	増減
発電・社会インフラ	866	1,022	156	△7	3	10
産業インフラ	1,092	1,167	75	△16	△10	6
パワーエレクトロニクス	1,247	1,297	50	14	26	12
電子デバイス	928	1,051	123	43	59	16
食品流通	875	880	5	52	61	9
その他	440	455	15	16	15	△0
消去または全社	△422	△453	△31	△43	△40	3
合計	5,026	5,418	392	59	114	56

売上高

前年同期に比べ
392億円増収の5,418億円

需要増に加え、為替換算差による増収効果もあり、全てのセグメントで前年同期に比べ増収となりました。

セグメント別には、発電・社会インフラは、国内の太陽光発電システムおよびスマートメータを中心に増収となりました。産業インフラは、産業プラントの国内更新需要の増加等により増収となりました。パワーエレクトロニクスは、国内外におけるインバータ・サーボ、受配電制御機器の需要増により増収となりました。電子デバイスは、インバータ・サーボ、産業機械向けを中心としたパワー半導体およびディスク媒体の需要増により増収となりました。食品流通は、自販機における国内での減少を中国市場での拡大により補い、コンビニエンスストア向け冷凍・冷蔵設備の増加もあり、増収となりました。

営業損益

前年同期に比べ
倍増の114億円

売上高・生産高の増加に加え、コストダウン等の体質改善効果により前年同期に比べ大幅な増益となりました。

純損益

前年同期に比べ
89億円増益の112億円

為替の円安に伴う営業外損益の改善、持分法適用会社であるメタウォーター(株)の上場に伴う特別利益の計上等により、前年同期に比べ大幅な増益となりました。

2014年度通期業績予想

第3四半期決算および今後の経営環境、為替動向を踏まえ、通期業績予想を上方修正しました。

	2013年度 (実績)	2014年度 (10/30予想)	2014年度 (1/29予想)
売上高	7,599	7,900	8,000
営業損益	331	400	410
純損益	196	240	270

単位：億円

※前提為替レート 1ドル=110円、1ユーロ=140円

経営方針(会社概況)説明会・工場視察会を開催

経営方針(会社概況)説明会・工場視察会を、昨年より増やし、計4回実施しました。当日は、経営方針・会社概況の説明に加え、ものづくりの現場をご視察いただきました。ご参加いただいた株主の皆様からは、“社長の説明で富士電機の目指す方向がよくわかった”“ものづくりの現場を見学し、会社に親しみが増した”などのご意見をいただきました。今後も富士電機をより一層ご理解いただくための企画を継続して実施していきます。

三重工場

(11/18開催)
81名参加



自動販売機の製造・試験現場のほか、内部構造や歴代の自動販売機などをご視察いただきました。

川崎工場

(11/28開催)
123名参加



“熟練の技”が光るタービン・発電機の生産現場や燃料電池などをご視察いただきました。

神戸工場

(12/2開催)
72名参加



太陽光発電に用いるパワーコンディショナや無停電電源装置、鉄道車両用電機品など、パワエシ製品の生産現場をご視察いただきました。

設備技術センター

(12/17開催)
72名参加



富士電機の製品競争力の源泉である生産技術力とそれを支える技術・技能者の人材育成現場をご視察いただきました。

当日のプログラムと開催風景

(三重工場視察会)

1 集合(近鉄四日市駅)



バスにて移動

2 経営方針説明会



北澤社長より経営方針や業績、海外事業の拡大などの重点的な取り組みについて説明。

3 質疑応答



株主様よりご質問・ご意見をお受けしました。

4 見学：製造棟



自動販売機の板金加工から塗装、組立まで、最新技術を駆使し生産される過程を見学。

5 見学：試験棟



降雨試験や照射試験、音響試験など、自動販売機の品質を守る試験設備を見学。

6 見学：展示ホール



工場のスマート化の取り組みや店舗関連機器、様々な種類の自動販売機を見学、コーヒーもご賞味いただきました。

7 解散(近鉄四日市駅)



バスにて移動

TOPICS

シンガポール低圧配電盤メーカーの買収

海外事業の基盤強化の一環として、シンガポールに本社を置き、マレーシア・インドネシア・オーストラリアに事業展開している低圧配電盤メーカー「SMB Electric Pte.Ltd.」を買収しました(2014年12月)。アジア・パシフィック地域におけるさらなる販路の拡大とエンジニアリング力の強化を図り、産業プラント・システム事業を拡大していきます。

SMB Electric Pte.Ltd.概要

- ・設立：1978年
- ・所在地：シンガポール
- ・売上高：110百万シンガポールドル
- ・主な事業内容：低圧配電盤(開閉装置・制御装置)の製造、販売、関連サービス



インターネットデータセンタ向け配電盤

ホームページのご案内

▶▶▶ <http://www.fujielectric.co.jp/about/ir/>

当社ホームページの株主・投資家情報では、決算をはじめ様々なIR情報や富士電機レポートを掲載しています。またリリース発表など最新のIR情報をメール配信しておりますので、ホームページから是非ご登録ください。

「株主・投資家情報」検索はこちらから ▶

富士電機 IR

検索



本報告書の将来についての計画や戦略、業績見通しに関する記載は、作成時点において当社が合理的と判断した一定の前提に基づくものであり、実際の結果とは実質的に異なる可能性があります。当社はこれらの記載のうち、いかなる内容についても確実性を保証するものではありません。

富士電機株式会社 〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目11番2号(ゲートシティ大崎イーストタワー) 電話 03-5435-7111 <http://www.fujielectric.co.jp>